

SANBANZE

三番瀬

自然環境の再生保全と地域住民が親しめる海の再生を目指して、
三番瀬再生計画(第3次事業計画)を進めています。



渡り鳥が舞う三番瀬

千葉県



未来へといのち育む三番瀬



マスコットキャラクター「ハゼちゃん」





の位置



三番瀬

三番瀬は、東京湾の最奥に位置し、浦安市、市川市、船橋市、習志野市の東京湾沿いに広がる約1,800haの干潟・浅海域(干潮時の水深5m以浅)です。

江戸前の豊かな漁場としての古い歴史をもち、アサリ、カニ、カレイなど多様な生物を育み、水質浄化機能を有するとともに、水鳥類の中継地として重要な位置を占めるなど、東京湾奥部に残された貴重な干潟・浅海域となっています。

千葉港湾湾区域

三番瀬再生計画(基本計画と事業計画)

三番瀬の自然環境を再生・保全し、地域住民が親しめる海を再生するため、千葉県では平成18年12月に「三番瀬再生計画（基本計画）」を策定しました。この基本計画で掲げた5つの目標を実現するため、これまでに事業計画（計画期間：平成18～22年度）、新事業計画（計画期間：平成23～25年度）及び第3次事業計画（計画期間：平成26～28年度）を策定し、各種事業に取り組んでいます。

計画の推進にあたっては、自然を対象とする不確実性を考慮し、順応的管理により事業を行うとともに、地元4市、県民、地域住民、漁業関係者、NPO、国等と連携・協働して効果的に進めています。

なお、第3次計画終了時（平成28年度末）には基本計画策定から10年を経過することも踏まえ、三番瀬に特化した取組に一定の目処をつけ、以降は県がそれぞれの分野で行う施策の中で対応することについて、検討していきます。

千葉県三番瀬再生計画の構成

基本計画（平成18年度策定 再生の目標と基本的な施策等の計画）

5つの
目標

生物多様
性の回復

海と陸と
の連続性
の回復

環境の持続
性及び回復
力の確保

漁場の生産
力の回復

人と自然と
のふれあい
の確保

12の
施策

第1節 ▶ 干潟・浅海域

第2節 ▶ 生態系・鳥類

第3節 ▶ 漁業

第4節 ▶ 水・底質環境

第5節 ▶ 海と陸との連続性・護岸

第6節 ▶ 三番瀬を活かしたまちづくり

第7節 ▶ 海や浜辺の利用

第8節 ▶ 環境学習・教育

第9節 ▶ 維持・管理

第10節 ▶ 再生・保全・利用のための制度及び
ラムサール条約への登録促進

第11節 ▶ 広報

第12節 ▶ 東京湾の再生につながる広域的な
取組



第3次事業計画概要

(計画期間:平成26~28年度)

「基本計画」に掲げた5つの目標の実現に向け、12の施策(節)に沿って29の事業を進めています。

▶第1節 干潟・浅海域

三番瀬は、埋立てによる後背湿地の消失や干潟の減少等により、自然環境の単調化が進んでおり、また、人と海とのふれあいも限られたものとなっています。

このことから、干潟的環境(干出域等)の形成により、海と陸との自然の連続的なつながりを回復させ、環境の多様化を進めるとともに、人が海と親しめる場所や機会を確保することが求められています。

このため、市川市塩浜2丁目の護岸前面における干潟的環境の形成について、三番瀬の再生における位置付けや役割を踏まえながら、これまで実施してきた試験の成果等の活用により、自然条件、制約条件等を整理し、方向性を取りまとめるとともに、市川市と事業の進め方や技術的な課題等について協議し、検討していきます。

■干潟的環境(干出域等)の形成等

▶第2節 生態系・鳥類

行徳湿地は、三番瀬の後背湿地の機能を有する汽水域の場所であるとともに水鳥等の野鳥やトビハゼ等、多くの生物が生息する都市部に残された貴重な自然となっています。

このため、行徳湿地への淡水供給等、湿地環境の維持管理を継続して実施します。

また、行徳内陸性湿地再整備検討協議会が検討を行った「行徳湿地の将来像」の内容を踏まえ、NPO、市川市など関係者と連携して、自然環境の保全に配慮しながら自然観察の場としての利用の促進に取り組めます。

取組に当たっては、学識経験者、関係者等が参加する意見交換会の活用を図りながら進めていきます。

また、三番瀬の生態系を把握するため、引き続き必要な自然環境調査を実施するとともに、関係者の合意のもとに生物多様性の回復の目安となる生物種(目標生物種)の選定を進めます。

■行徳湿地の保全と利用

■三番瀬の自然環境の調査

■生物多様性の回復のための目標生物種の選定



▲行徳湿地

▶第3節 漁業

豊かな漁場への改善に向けて、順応的管理により、漁業者、地元市及び県が協力して取り組みます。また、漁業者グループによる覆砂、海底耕うん、害敵生物の除去等の様々な干潟漁場保全活動の取組を支援していきます。

ノリ養殖については、三番瀬の不安定な漁場特性に対応した養殖管理技術の向上に向けた普及指導に取り組めます。

アサリについては、網袋による減耗対策技術開発を行うとともに、ホンビノスガイについては資源状況を把握した上でその有効活用を推進し、ハマグリについては種苗の育成技術開発に取り組んでいきます。

■豊かな漁場への改善の取組

■ノリ養殖業・貝類漁業対策等

■漁業者と消費者を結ぶ取組の推進

▼ノリ養殖



▲アサリ漁(写真:中村ひろ子)



▶第4節 水・底質環境

海老川及び真間川の流域水循環系の再生に引き続き取り組みます。

河川及び東京湾の水質改善や、赤潮・青潮の発生抑制を図るため、生活排水対策や産業排水対策等を継続し、流入する汚濁負荷量を削減します。

水質汚濁の原因の調査や監視、「貧酸素水塊」の発生状況の把握と青潮関連情報の提供を継続して実施します。

- 海老川流域の健全な水循環系の再生
- 真間川流域の健全な水循環系の再生
- 合併処理浄化槽の普及等
- 産業排水対策
- 流域県民に対する啓発
- 下水道の整備
- 青潮関連情報発信事業
- 貧酸素水塊情報の高度化



▲青潮(写真:東京湾再生推進会議HP)



▲水質調査船「きよすみ」

▶第5節 海と陸との連続性・護岸

塩浜1丁目護岸約600m、塩浜2丁目護岸約900mについては、平成25年度に改修が完了しました。

塩浜2丁目護岸残り200m区間については、市川市が検討を進

めているまちづくりや市民が海と親しめる場の計画等、護岸背後地における関連事業と調整を図りつつ、自然再生(湿地再生)の実現に資する護岸改修の早期完成を目指します。

- 市川市塩浜護岸改修事業
- 護岸の安全確保の取組
- 自然再生(湿地再生)事業



▲自然と調和し海と親しめる護岸(市川市塩浜2丁目)

▶第6節 三番瀬を活かしたまちづくり

三番瀬周辺区域においては、三番瀬の再生・保全や景観等に配慮した、三番瀬にふさわしいまちづくりを進めていくことが必要です。

このため、まちづくりの主体である地元市との情報交換会等を通じ、必要に応じ助言を行う等、三番瀬を活かしたまちづくりを支援していきます。

- 三番瀬を活かしたまちづくりの促進

▶第7節 海や浜辺の利用

多くの県民が三番瀬に親しむことができる場所を引き続き、整備していくとともに、機会を提供していきます。

また、海や浜辺の賢明な利用に向け、必要に応じて、漁業者、地域住民、利用者等の参加のもとで、利用形態に応じた新たなルールづくりのための調整等を行います。

- ルールづくりの取組



▲ふなばし三番瀬海浜公園の潮干狩り



▶第8節 環境学習・教育

多くの人々が三番瀬に関心を持ち、広範に再生への活動に参加できるように環境学習に必要なプログラムを実施するとともに、人材育成・確保の仕組みを検討します。

環境学習のための場の提供については、様々な世代や地域性にあつた学習内容やプログラムの開発・提供を検討します。

ビオトープネットワークについては、三番瀬流入河川流域4市の学校や公園等について、ビオトープの普及啓発やビオトープ設置者間の情報交換を進めます。

- 環境学習・教育事業
- ビオトープネットワークの強化



▲湿原性ビオトープ(習志野市立秋津小学校)

▶第9節 維持・管理

三番瀬において地元市や地域住民等によって行われているクリーンアップ活動等の維持・管理活動を引き続き支援していきます。

また、再生事業に係る順応的管理を効率的に行うため、三番瀬の自然環境に関する調査データを継続して追加していきます。

自然環境調査を主体的に実施するNPO等に対しては、モニタリングマニュアルを提供し、調査器具(底生生物調査用具一式)の貸出等を行います。

- 三番瀬再生・保全活動の支援
- 三番瀬自然環境データベースの更新
- 三番瀬自然環境調査に対する支援



▲底生生物調査用具(一部)

▶第10節 再生・保全・利用のための制度及びラムサール条約への登録促進

条例の制定については、広報や三番瀬ミーティング等を活用し、三番瀬の再生・保全・利用についての様々な意見等の把握に努めながら方向性を検討します。

また、ラムサール条約については、登録に向けた調整が円滑に進むよう、引き続き、地元関係者の意見を聴きながら取り組んでいきます。

- 三番瀬の再生・保全・利用のための条例の制定
- ラムサール条約への登録促進

▶第11節 広報

三番瀬の再生・保全には、地域住民をはじめ、幅広い県民の三番瀬の再生への関心・理解を深めるとともに、県民参加による三番瀬の再生・保全を進めていくことが重要です。

インターネットなどを活用しながら、親しみやすくてわかりやすい広報を行うとともに、三番瀬の再生・保全活動を行う団体を支援します。

- 三番瀬に関する広報



▲御菜浦・三番瀬ふなばし港まつり(平成25年10月19日)

▶第12節 東京湾の再生につながる広域的な取組

国、関係自治体、地域住民等との交流・連携を深め、汚濁負荷量の削減による東京湾流入河川の水質改善に取り組むなど、東京湾及び三番瀬の再生につながる広域的な取組を推進します。

- 国、関係自治体の広域的な取組

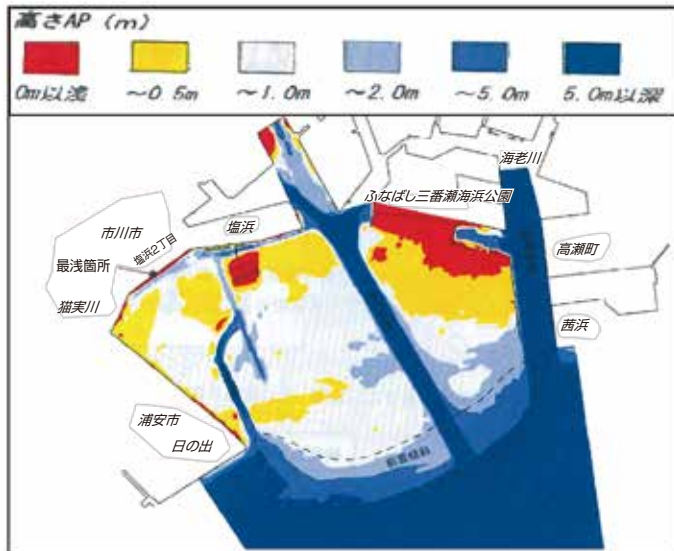


三番瀬の環境

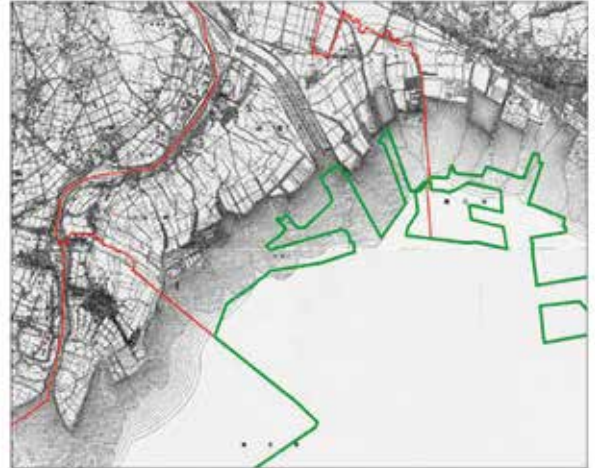
かつての三番瀬周辺には、江戸川等から継続的に土砂や栄養分を含んだ淡水が流れ込むことにより、広大な干潟・浅海域が形成されていました。そこには多くの生物が生息し、豊かな海の恵みを生かした漁業が盛んでした。

しかし、戦後の高度経済成長の中で、大規模な埋立てや都市化により、三番瀬周辺の環境は大きく変わりました。干潟・浅海域の面積が大幅に減少し、河川とのつながりが弱まったこと等により、生態系の著しい変化、漁業生産の不振や水質汚濁等を招くこととなりました。

三番瀬の深浅図(平成23年度)



三番瀬周辺の埋立地の推移



1945年(昭和20年)

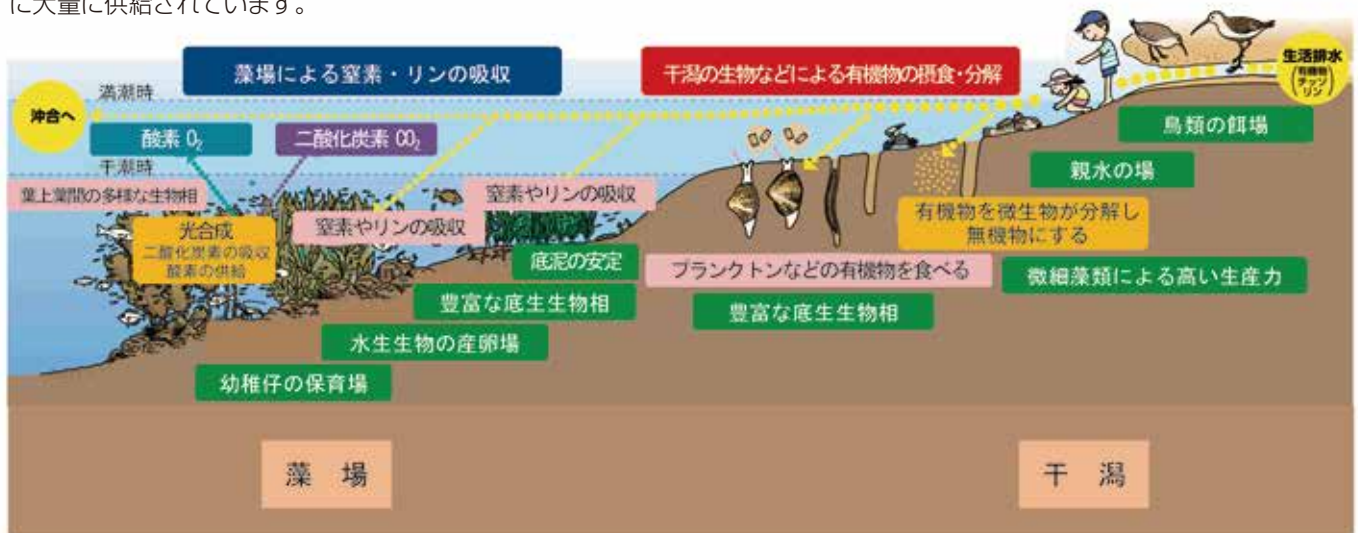


1998年(平成10年)

干潟の生物と水質浄化作用

干潟には多様な底質・水深の環境があり、それぞれの環境に適応した生物が生息しています。

干潟ではこれらの生物の食物連鎖によって海水が浄化されているほか、潮汐に伴って、有機物の分解に必要な酸素が海水中に大量に供給されています。

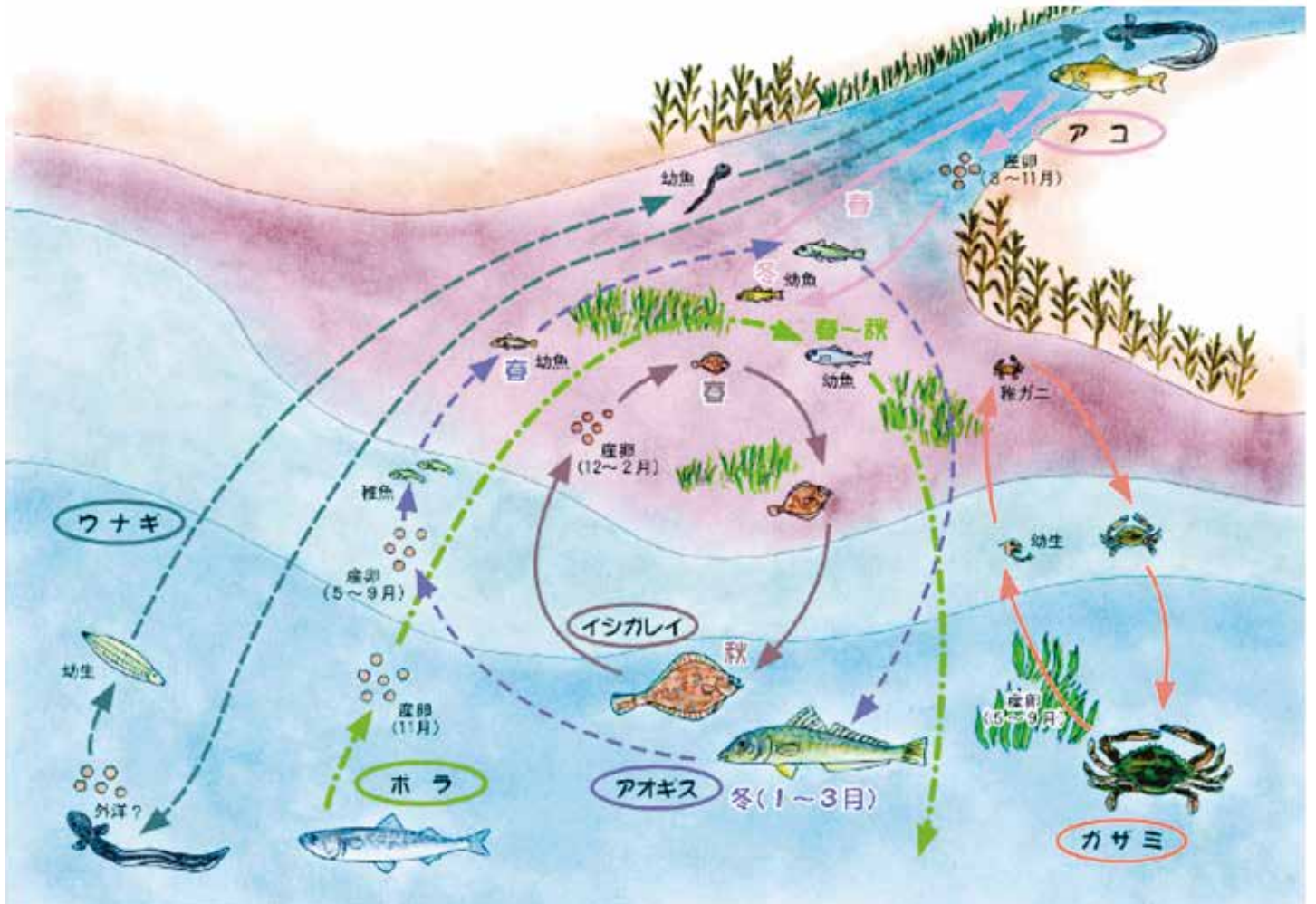


出典:水産庁HP

三番瀬と海の生物

開発前の三番瀬と海の生物の生活史は下の図のようであったと考えられています。

現在の三番瀬は昔と比べると河川とのつながりが薄れてしまいましたが、東京湾の干潟・浅海域の多くが埋め立てられた現在、三番瀬は、魚類が産卵し幼魚が生育する場所として、東京湾の最奥部に残された貴重な場所になっています。



三番瀬と東京湾の漁業



▲海苔干し場(昭和42年頃、浦安市堀江) 浦安市郷土博物館所蔵

江戸時代から東京湾北部は「江戸前」と呼ばれ、幕府に様々な種類の魚介類を献上する「御菜浦(おさいうら)」として繁栄しました。明治時代後期にはノリ養殖も始まり、アサクサノリの産地としても有名になりました。

戦後以降、三番瀬の漁場環境は大きく変わり、アオギスやハマグリなどが見られなくなりましたが、ノリ養殖やアサリ漁業は、生産量は減少しているものの現在も主要な漁業となっています。



▲東京湾のまき網漁(写真:中村ひろ子)

三番瀬の干潟・浅海域は、東京湾に棲む魚介類が産卵し、幼魚が生長する「ゆりかご」として寄与していることから、東京湾で営まれる様々な漁業のためにも三番瀬の保全・再生が重要です。



三番瀬の生き物

～三番瀬にはどんな生き物がいるの?～

三番瀬には多くの鳥が餌場と休息場を求めて飛来します。また、干潟を掘ってみると、アサリ、マテガイなどの二枚貝やゴカイなどを見ることができます。ここではその主なものを紹介します。

水鳥類

スズガモ



全長約45cm。冬に数千から数万羽の群れが見られる。雑食性だが、潜水して水底の貝類を殻ごと食べる事が多い。

カワウ



全長約80cm。V字の隊列を組んで飛ぶ。周年見られ、主に魚を食べる。

ハマシギ



全長約20cm。口ばしが長く泥をつつき回ってゴカイ等の餌を食べる。数千羽の群れをつくる。夏羽は腹が黒い。

ユリカモメ



全長約40cm。写真は冬羽だが、夏羽は頭部が黒くなる。

コアジサシ



全長約30cm。水中にダイビングして小魚を捕る。

ミヤコドリ



全長約45cm。黒い頭と朱色の口ばしと足が特徴。口ばしで二枚貝をこじあけて食べる。カニ、ゴカイ等も食べる。

ハジロカイツブリ



全長約35cm。水中に潜って小魚やカニ等を食べる。

ミュビシギ



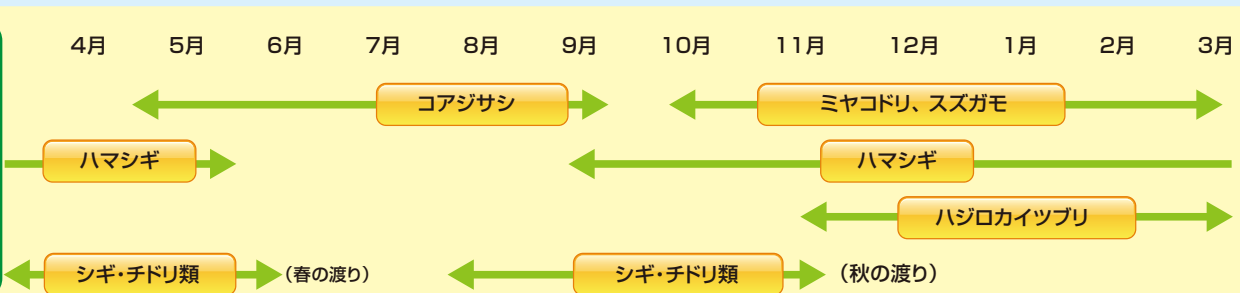
全長約20cm。ハマシギと似ているが、腹が白い。写真は冬羽だが、夏羽は胸や背が茶色がる。

メダイチドリ



全長約20cm。干潟を走り回ってゴカイ等を食べる。

鳥のよみ





底生生物

アサリ



海水をろ過し、水質浄化にも役立っている。成貝のろ過量は1個体で約10L/日とも言われる。

バカガイ



寿司種のおおやぎ。水揚げしたとき、口を半開きにして足をだらりと出すのでバカガイという名がついたという説もある。

シオフキ



よく水を吹き出すためシオフキという名がつけられたと言われている。

マテガイ



別名かみそりがい。殻長約12cm。この貝が棲む穴に塩を入れると飛び出してくる。

ホンビノスガイ



北米東海岸からやってきた外来種。近年、三番瀬で漁獲量が増えている。

タマシキゴカイ



(左下:成体, 右上:卵塊)
砂に含まれる有機物を食べ、消化できない砂を排出する。

アナジャコ



体長8~9cm。泥干潟にY字状の深い巣穴を掘る。

マメコブシガニ

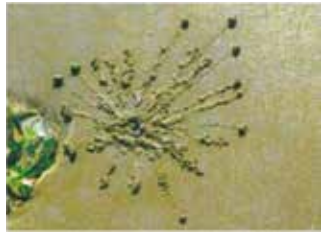


前後に歩くことができるカニ。2cmほどの固くて丸い甲羅を持つ。

コメツキガニ



約1cmの小さなカニ。深さ10cm位の穴を掘って生活する。砂に含まれる有機物を食べ、残った砂や巣穴を掘った砂で砂団子を作る。



(巣穴の周りの砂団子)

海草

アマモ



現在の三番瀬では少なくなりましたが、魚介類の産卵場所や幼魚の生育場所として重要。

海藻

オゴノリ



刺身の「つま」に使われる海藻として有名。食用にする時は熱湯で処理する。

魚類

マハゼ



主にゴカイ等の底生生物を食べる。

イシガレイ



三番瀬の浅場に広く分布しており、底生生物を食べる。成長すると沖合へ移動する。

ボラ



藻類や甲殻類を食べる。海面上にジャンプする姿がよく見られる。

セイゴ(スズキの幼魚)



三番瀬一帯に広く分布しているが、成長すると沖合を回遊する。主に魚類や甲殻類を食べる。



三番瀬関連施設の御案内



三番瀬に来られたら、これらの施設もぜひ見学してください。

① 行徳野鳥観察舎



水鳥が観察できるほか、図書室、視聴覚室、展示室が利用できます。

場 所：市川市福栄4-22-11
電 話：047-397-9046
開館時間：午前9時～午後4時30分
休 館 日：
月曜日（祝日、振替休日に当たる場合は火曜日）、毎月末の金曜日、年末年始

交 通

- 東京メトロ東西線「行徳駅」から京成トランジットバス「新浦安駅」行きに乗り「福栄二丁目」下車徒歩700メートル
- JR京葉線「新浦安駅」から京成バス「本八幡駅」または「江戸川スポーツランド」行きに乗り「行徳高校」下車徒歩700メートル
- 東京メトロ東西線「行徳駅」から徒歩25分

② 谷津干潟自然観察センター



谷津干潟の自然や干潟に飛来する鳥たちの観察・学習センターです。

場 所：習志野市秋津5-1-1
電 話：047-454-8416
開館時間：午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
休 館 日：
月曜日（祝日、振替休日の場合は翌平日）、年末年始（12/28～1/1）

交 通

- JR京葉線「南船橋駅」より徒歩20分
- JR京葉線「新習志野駅」より徒歩20分
- 「京成谷津駅」より徒歩30分

③ 浦安市郷土博物館



浦安に関するあらゆる情報が集まっています。

場 所：浦安市猫実1-2-7
電 話：047-305-4300
開館時間：午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
休 館 日：
月曜日（祝日、振替休日に当たる場合は火曜日）、館内整理日、祝日の翌日、年末年始

交 通

- JR京葉線「新浦安駅」からベイシティバス7系統で「市役所前」下車徒歩2分
- JR京葉線「新浦安駅」からおさんぽバス医療センター線で「健康センター・郷土博物館」下車徒歩2分

④ ふなばし三番瀬海浜公園



潮干狩りが楽しめます。また、渡り鳥の姿も見られます。

場 所：船橋市潮見町40番
電 話：047-435-0828
開館時間：午前9時～午後5時
(施設により異なります。)
休 館 日：
月曜日（祝日、振替休日に当たる場合は火曜日 ※夏休み期間中は開園）、祝日の翌日（祝日が金・土曜日の場合は次の火曜日）

交 通

- JR京葉線「二俣新町駅」から京成バスシステム「船橋海浜公園」行き終点下車
- JR「船橋駅」又は「京成船橋駅」から京成バスシステム「船橋海浜公園」行き終点下車

